

第48号

〈発行〉

平成19年8月1日

国立神戸視力障害センター

センターだより



〈発行〉 国立神戸視力障害センター 神戸市西区曙町1070 電話(078)923-4670 FAX(078)928-4122
URL <http://www.kobe-nhb.go.jp> E-mail syomu@kobe-nhb.go.jp

就任のご挨拶

所長 湯澤 茂男

時候の挨拶で言えば晩夏、残暑となるのですが、皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

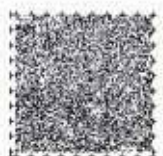
私は本年4月1日付で所長を拝命し、国立身体障害者リハビリテーションセンターから赴任してまいりました。公務員生活も30年以上になりますが、障害福祉分野の仕事に直接携わったのは平成10年度からですので、今年でちょうど10年目となります。最初は所長という重責を全うできるかという不安と緊張の連続でしたが、早数か月が経とうとしています。

赴任して早速、新年度の入所式や始業式がありましたが、障害を乗り越えて再び職業人として社会で活躍するための第一歩を踏み出された新入所者の皆さんを目の前にして、特に代表者の方から力強いご挨拶をいただいた際には、心を打たれる思いがしました。同時に、昭和26年に当センターが誕生して以来、半世紀を超える歴史と伝統を築き上げてこられた諸先輩の方々のご尽力に、あらためて心を引き締めた次第であります。

さて、昨年10月から障害者自立支援法が本格的にスタートし、新法に基づく昼間実施サービスとしての「就労移行支援（これまでの理療教育）」と「自立訓練（視覚障害者に対する機能訓練）」、夜間の居住支援としての「施設入所支援（宿舎の提供）」を行う指定障害者支援施設として、兵庫県の指定の下に事業を展開しております。

今後、法制度の見直しも予定されておりますが、とりわけ当センターの就労移行支援をご利用される方々にとっては、あはき師（あんまマッサージ指圧師、はり師、きゅう師）の国家資格取得を目標に、さらには治療院の開業や病院・企業等への就職など、職業復帰に向けた遠く険しい道程が待ち受けています。当センターとしましては、今後ますます充実した支援と業務運営が求められることを念頭に、多くの利用者喜んでいただける施設を目指して、視覚障害者の多様なニーズに的確に対応していけるよう心がけていきたいと考えています。

最後になりましたが、当センターは数少ない国立の指定障害者支援施設でありますので、職員一人ひとりが国立施設として期待される存在意義を十分に認識し、改めて使命感（自覚）をもって職務に精励していく所存ですので、利用者及びご家族の皆様方をはじめ、卒業生やボランティアの皆様方並びに地元福祉関係機関等の方々のご支援とご協力を心からお願い申し上げます、ご挨拶いたします。



▲平成19年度 就労移行支援事業（養成施設）入所式



平成19年度 就労移行支援(養成施設)入所式 自立訓練(機能訓練)入所

就労移行支援(養成施設)の入所式が4月10日に行われました。今年度の新入所者は専門課程が7名(男性5名・女性2名)、高等課程が1名(男性)で、ほとんどの方が地元兵庫県出身です。

入所式では、新入所者代表が「私たちは年齢の幅もかなりあり、今までの生活環境も違うわけですが、ここで生活を共にしますのでお互いに助け合って楽しく過ごせるように、また、社会に出てからもお互いに励ましあっていける良き友達を作りたいと思います。」とあいさつ。その言葉のように、入所式から数日後にはもう、就労移行支援(養成施設)でいちばん賑やかなクラスになっていました。

また、自立訓練(機能訓練)でも4月2日に3名、5月14日に3名、6月11日に2名の方が新たに利用を開始され、歩行・パソコン・調理・点字など、それぞれの生活課題にあった訓練に取り組んでいます。

センターを利用されるみなさんにとって、ここでの出会いや訓練がこれからの人生の糧となりますよう、私たち職員も全力でサポートしていきたいと思っています。



▲新入所者代表の挨拶

平成19年度 就労移行支援(養成施設)新入所者紹介

入所式から約2ヶ月が経った5月に、今年新しく入所された就労移行支援(養成施設)のみなさんからメッセージをいただきました。

今の想いを忘れず、8名それぞれの目標や未来に向かってがんばってください!

岡山県の美作市から来ました。私は盲学校であんま・マッサージ・指圧の資格を取り、一度就職しましたがやはり鍼灸の資格も必要と感じ、このセンターを選びました。資格以外にも集団生活で学べる何かを得て卒業できれば良いと思います。

(I・Y)

神戸視力センターに来て早くも1ヶ月と十数日が過ぎ、良き友と出会い充実した日をおくっています。私はよく遊びよく学ぶことをモットーに過ごす日々であります。



目標に向かってただ走るのみ。一日一日を大切に過ごしたいと思います。

(I・T)

センターに入所し、正しい知識と技術を修得し、センターの精神と伝統を守って卒業し、国家試験合格という大きな目標をめざして頑張りたいと思います。幸い良き先生、良き同期生に恵まれ、楽しい3年間の学生生活を送れそうです。

(I・Y)

私は明石市の出身です。目が見えにくくなってまだ数年です。当初はどうしたらよいか分からなくてイライラしていました。ある時、この視力センターを知り、薬をもすがる思いで駆け込みました。最初は自立訓練（機能訓練）でお世話になり、今年度からは就労移行支援（養成施設）でお世話になることになり、胸をふくらませています。

(K・M)

今年の4月から当センターにお世話になっているKです。3年間クラスの方々と仲良く楽しくがんばっていきます。よろしくお願いします。

(K・Y)

早いもので、センターに来てから約2ヶ月が経ちました。初めは慣れない環境の中、特に今までとは全く違う時間の流れに戸惑いましたが、ようやく自分なりのペースがつかめるようになってきました。今はたくさんの人とお話をしたり、新しいことを勉強できる毎日が楽しいと感じられるようになり、気持ちに余裕ができてきました。これからの3年間、きっとたくさんの壁にぶつかり、時には「辛い、しんどい」と思うこともあると思います。しかし、毎日が楽しいと感じられる今の気持ちを大切に、一日一日を過ごしていきたいと思います。よろしくお願いします。

(H・Y)

6ヶ月間の自立訓練（機能訓練）に引き続き、就労移行支援（養成施設）に進み、早、2ヶ月が過ぎました。人体の構造、機能を学ぶにつれ、その素晴らしさ、不思議さに驚くばかりです。また東洋医学の奥深い思想に基づいた治療医学にも感嘆しています。

素敵な同級生と、優しく親切な先生方のもとで、知識と技術を身につけ、活かすことが出来るように卒業まで頑張りたいと思います。

(Y・K)

私は、生まれた時から、全く耳が聞こえません。目も少し見えにくい状態でした。小学校から高等部まで、姫路ろう学校の寄宿舎に入り、生活しました。

卒業後、会社に入社し、仕事を頑張っていました。視力がだんだん低下し、続けられなくなり、しかたなく辞めることになりました。

12年前、兵庫県に盲ろう者の会「友の会」が設立されて以来、活動をしてきました。盲ろう者、通訳介助者の仲間もできました。私のコミュニケーションの方法は、触読手話です。

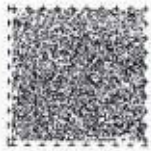
今年4月10日、視力障害センターに入所してからは、通訳介助者にボランティアで通訳してもらっています。この人たちがいないと、私は勉強できません。入所後、専門課程の同級生や高等課程の2年生の人達と、毎日楽しく交流しています。

将来については、ろう者、盲ろう者、通訳者などに対して、あんま・マッサージ・指圧の仕事をしたいと思っています。国家試験に合格できるように頑張ります。よろしくお願いします。

(N・K)



▲よろしくお願いいたします！！



平成18年度
就労移行支援(養成施設)卒業・修了者の進路

	開業	治療院	病院	その他	計
高等課程	1	2			3
専門課程	2	2	1 (1)	7 (3)	12 (4)
研修クラス				4	4
計	3	4	1 (1)	11 (3)	19 (4)

* () 書きは女子再掲

平成18年度
自立訓練(機能訓練)修了者の進路

家庭復帰	就労継続	就職活動	職業訓練	理療教育	計
10	1	2	1	4	18

自立訓練(機能訓練)修了者インタビュー

自立訓練(機能訓練)を修了されたほとんどの方が、ご家庭に戻って生活をされています。二人の方に、利用のきっかけから修了後の様子までをお聞きしました。

・北井ひとみさん(兵庫県)

「私は7年前からだんだん見え難くなり、一人歩きができなくなり、心を閉ざす毎日でした。幸いにも友達がよくしてくれますが、足手まといは嫌だし、甘えて人生終わるのも悲しいし、自分のことは自分でできないと、と思入所を決めました。受講内容は歩行・点字・パソコン・日常生活です。歩行は最初、肩がこるしうまく白杖を振れませんでした。熱心なご指導のおかげで少し自信ができました。点字は日々の努力と、復習もしていたつもりがなかなか困難でした。パソコンはまったく初心者で、キーを打つこともできないぐらいでしたが、楽しくなりました。日常生活はなんでも少しのコツですね、音と匂いを使えば安全な調理ができることに共感です。センター生活は、いろんな方に支えられ、心地よい日々でした。訓練を終え、いろんなところに出かけられるようになり、これからはいろんなことに挑戦し、できることを見つけながらゆっくりと一歩ずつ歩いていこうと思います。」



・古田哲男さん(愛知県)

「私は外へ出ることもなしに悶々と暮らしていました。このままではとてもつまらない一生になるのではと思い、せめて日記をつけ、新聞を読みたいと思っていたところ、センターのことを思い出して相談すると、とても親切な説明をしていただき、入所を決断しました。私はパソコン・歩行・日常生活の3つのコースを選びました。パソコンはキーに触れたこともないし、もちろん画面も見えませんでした。なんとかメールが打てるようになり、新聞も聞けるようになりました。そして、同じような境遇の人と語り、職員の皆さんに悩み・愚痴を聞いてもらい、ストレスが解消して毎日が楽しかったことは、一生において忘れることができないと思います。現在は週一回デイサービスに行き、運動とクラブ活動をして過ごしています。そして、半日近くは5紙の新聞を聞き、メールを打つ時間が持てるようになり、他の人には小さな生活の一部かも知れませんが、私にとっては大変大きな生甲斐となっています。」

自立訓練(機能訓練)
一般教養

盲導犬講習会



春の風が心地よく吹く4月の下旬、兵庫盲導犬協会の訓練士の方々と2頭の盲導犬が当センターにやってきました。自立訓練(機能訓練)の利用者の方々と対象に盲導犬講習会が行われたのです。「盲導犬って聞いたことはあるけど、実際はどうなの・・・？」と、知っているようで知らない盲導犬のことについて、盲導犬訓練士の方からわかりやすく説明していただきました。

盲導犬育成事業の現状、盲導犬の訓練、盲導犬との生活について、実際に盲導犬に接しながら話を聞くことができ、講習会に参加した皆さんの盲導犬に対するイメージが、より身近になったようです。

この日は、2頭の盲導犬との体験歩行も行われました。利用者の方々は、当センターで歩行訓練を受けて、普段は白杖を使用して歩いていますが、盲導犬と一緒に

に歩くのは初めての体験でした。はじめは戸惑いを隠せない様子でしたが、それでも訓練士の方々のアドバイスのもと、徐々にコツをつかむことができました。体験歩行を終えた後、一緒に歩いた盲導犬の頭を撫でながら「ありがとう」と声をかけていた皆さんの姿が印象的でした。

当センターでは、自立訓練(機能訓練)を利用している方々を対象に、「一般教養」の時間を設けています。今回の盲導犬講習会もその一環で、毎回異なるテーマで生活に役立つ情報の提供を行っています。

一般教養では、話を聞くだけではなく実際に体験してもらうことで、有意義かつ楽しめる時間となることを目標としており、利用者の皆様にも好評をいただいています。



▲初めて持った盲導犬用ハーネス



▲一緒に体験歩行した盲導犬にお礼

センター行事予定

(2007年4月から10月まで)

4月2日(月)	自立訓練(機能訓練)新規入所、訓練開始	21日(土)～	利用者夏期休業(就労移行支援(養成施設))
9日(月)	就労移行支援(養成施設)始業式		(8/19まで)
10日(火)	就労移行支援(養成施設)入所式	8月11日(土)～	利用者夏期休業(自立訓練(機能訓練))
5月11日(金)	解剖見学実習		(8/19まで)
14日(月)	自立訓練(機能訓練)新規入所	20日(月)	就労移行支援(養成施設)授業、 自立訓練(機能訓練)訓練開始
27日(日)	第46回障害者スポーツ大会	9月19～21日	前期期末試験
30日(水)	総合避難訓練	25日(火)	就労移行支援(養成施設)後期授業開始
6月11日(月)	自立訓練(機能訓練)新規入所	上旬	あん摩治療奉仕
18～22日	日前期中間試験	10月16日(火)	利用者定期健康診断
7月3日(火)	第1回模擬試験	中旬	鍼灸臨床研修講座
6日(水)	第1回卒業特別研修会	下旬	第2回卒業特別研修会



転入職員紹介

湯澤 茂男

4月1日付けで国立身体障害者リハビリテーションセンターから転勤してまいりました。どうぞよろしく。出身は越後の郷“新潟県”です。今回で3度目の単身赴任となり、関西での生活は2度目です。神戸センターは初めてのお世話になります。と言っても4年前に野球大会で一度お邪魔しておりますが、これも何かのご縁?と思いつつ、初めての視力センター勤務と単身生活をエンジョイしています。人は外見で判断してはいけません。強面と思われているようですが、至って優しい心の持ち主ですので、今後ともよろしく願いいたします。



庶務課 佐藤 春巳

4月1日付けで塩原センターから異動し、神戸センターに勤務させていただくことになりました。赴任旅行中、大井川・浜名湖・木曾川と南下するにつれ水の色がだんだんトロピカル調?になり、ああ暖かい所に向かっているんだと、実感することができました。こちらは都会というイメージがありましたが、実際に生活してみると、すぐ周りに稲田や畑があり、出身の大分県で5年前まで兼業農家をやっていた私には、安心できて元気の出る風景でもあります。今回神戸センターと一緒にいる皆様方との縁を大切に、楽しく仕事をしたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。



指導課 工藤 裕司

神戸センターで勤務させていただくのは初めてですが、実は大変な猛暑だった平成元年に、歩行指導員の研修で半年程お世話になったことがあります。しかし、当時は一面(?)畑だったところに高層マンションが建ち並び、夜はライトアップされた美しい明石海峡大橋が目前に浮かび上がり、街の近代化に驚いています。その反面、神戸らしい坂の多さは昔と同じで、自転車で走り回るのが辛くなってきたあたりは、むしろ私自身の老化現象のようです。これも何かの縁ですので、当面は坂道相手に体力アップを図ろうと考えています。どうぞよろしく願いいたします。



指導課 藤田 ゆかり

国立身体障害者リハビリテーションセンターの後、国立伊東重度障害者センターを経て、この度、神戸センターでお世話になることになりました。方向音痴を絵に描いたような私にとって、当センターは思いの外広く廊下が入り組んでおり、4月当初は無駄にあちこち彷徨う毎日でしたが、最近になって漸く目的の場所まである程度効率良く辿り着くことができるようになりました。所内のオリエンテーションがほぼ終了(?)しましたので、これからは少しずつ所外にも足を伸ばしてみたいと考えているところです。不慣れなため、皆様にはご迷惑をおかけすることも多いかと思いますが、長い目で暖かく見守って頂けると幸いです。どうぞよろしく願いいたします。

指導課 山本 裕理

4月1日付けをもって所沢の国リハセンターより赴任してまいりました。神戸センターは2度目、10年振りの勤務となります。そのため建物など当時と変わらないところは懐かしく感じていますが、神戸センター取り巻く環境は自立支援法等大きく変わっていますので、気を引き締めて業務に専念していきたく思います。また、4月から自転車通勤をはじめました。距離的には5kmちょっとですが、運動不足解消にはもってこいなので、こちらも挫折しないよう頑張っけて行ってきたいと思っております。どうぞよろしく願いいたします。



指導課 三浦 久美

今年4月に採用されましたが、社会福祉士になって5年目です。前職は大分県社協のボランティア・市民活動コーディネーターとして地域福祉に携わっていました。そこで数々の素晴らしい出会いがあったおかげで今、神戸センターにいます。しかしここは社協ボラセンとは世界が180度違い、私にとってある意味異国です。組織や法律、利用者の支援方法など戸惑うことも多い日々ですが、神戸に来てからの数ヶ月間に視覚障害の世界や文化を知ったことで、これまでと違う視点で世の中を見られるようになり、視野が広がりました。出会いこそ人生の宝探しです!気軽に声をかけください。



教務課 西澤 伸之

西日本での生活を初めてしています。開放的な雰囲気と風もさわやかで心地よく感じています。塩原センター勤務をきっかけに函館からリハ、「そして神戸(古い)」にやってきました。職場環境では、とまどうこともあります。家庭生活では妻と息子の3人で暮らしていますが、宿舎が4階のため見晴らしは良いのですが、足腰と心肺機能の弱りを痛感させられています。余暇としては、近隣の名所古跡めぐりなどをしてみたいと思っています。おいしい物もたくさんあるとのことですので、それも楽しみです。



教務課 浮田 正貴

はじめまして、本年度新規採用になりました浮田と申します。出身は福岡県です。神戸に住むのはまったく初めてです。神戸に赴任することが決まっすぐ神戸の情報誌を買いました。情報誌を見ていてもイメージわかず、引越してドタバタしてよくわからないまま来てしまいました。徐々に生活に慣れていながら一杯仕事をがんばっていきたくと思っています。家族も神戸は初めてでこれからを楽しみにしています。慣れてきたらいろいろな所に出かけてみたいと思っています。今後ともご指導よろしく願いいたします。



人事異動

3月31日付

◆ 退 職

藤井 修二 (庶務課長補佐)
高倉 義孝 (指導課長)
原田 敦史 (指導課生活支援専門職)
笹田 三郎 (教務課長)
穴戸 新一郎 (教務課教官)

4月1日付

◆ 転 出

松岡 利男 (所長)
→国立身体障害者リハビリテーションセンター更生訓練所指導部長
石毛 利宏 (庶務課庶務係)
→国立別府重度障害者センター庶務課会計係長
有馬 早苗 (指導課主任生活支援専門職)
→国立身体障害者リハビリテーションセンター更生訓練所指導部相談判定課主任心理判定専門職
佐取 幸枝 (教務課教官)
→国立塩原視力障害センター教務課教官

◆ 転 入

湯澤 茂男 (所長)
←国立身体障害者リハビリテーションセンター管理部総務課長
佐藤 春巳 (庶務課長補佐)

←国立塩原視力障害センター庶務課会計係長

工藤 裕司 (指導課長)

←国立身体障害者リハビリテーションセンター更生訓練所指導部指導課主任生活支援専門職

山本 裕理 (指導課入所者援護係長)

←国立身体障害者リハビリテーションセンター管理部企画課学院係長

藤田 ゆかり (指導課主任生活支援専門職)

←国立伊東重度障害者センター指導課生活支援専門職

西澤 伸之 (教務課長)

←国立身体障害者リハビリテーションセンター更生訓練所理療教育部主任教官

◆ 新 規 採 用

三浦 久美 (指導課生活支援員)

浮田 正貴 (教務課教官)

◆ 再任用任期更新

森本 宏美 (庶務課庶務係)

←指導課入所者援護係

◆ 内 部 異 動

浅沼 旬 (庶務課会計係)

←教務課業務係

伊藤 毅 (教務課業務係長)

←庶務課会計係



御当地訪問 ①

「休日の遺跡めぐり」

指導課 工藤 裕司

この4月に単身、神戸に転勤してきて早4ヶ月が過ぎました。「おーい」と声を出しても誰が返事をするわけでもなく、ひたすら掃除に洗濯、買い物という主婦生活が板につきつつあります。それでも休日は暇をもてあまし、持病の腰痛対策も兼ねて散歩を始めたところ、意外な発見がありました。今回はそんな身近な発見をお伝えしましょう。

神戸センターは、実は神戸市とは言っても西のはずれに位置し、数百メートルも歩けば明石市に入ります。明石といえば「明石焼き」や「子線まんじゅう」も有名ですが、私としては中学で習った明石原人を思い出しました。その明石原人も、原人ではなくもう少し時代の新しい旧人(5~6万年前)だったとの解釈が現在の定説となっているようです。しかも、その発見場所とされる「明石原人腰骨発見地」は、「明石象の発掘地」と並んで自転車で行けるほど近くの海辺にあることに驚かされます。

センター周辺には、こうした歴史のある遺跡が多

く点在しており、最も驚いたのは職員宿舎の裏手の公園に現在も宮内庁が管理する古墳があったことです。この古墳は、王塚古墳(写真1)と呼ばれ、周囲は200m足らずですが、池に浮かぶきれいな形の前方後円墳です。日本書紀には、602年に聖徳太子の弟の当麻皇子の妃となる舎人姫王が病死した際に、この古墳に葬られたと記されています。そもそも子供の頃に教科書でしか見たことのない前方後円墳が、自分の住んでいる場所の裏手で見られること自体が、明治以降に開拓された北海道で生まれ育った私には信じられないことでした。

さて、神戸に来て驚いたことはこうした遺跡だけではありません。腰痛持ちの私としては、最近、休日にはリハビリを兼ねてセンター周辺を散策していますが、とにかく溜め池が多いことにも驚かされました。この溜め池の謎については、次回、なぜか無数にいる溜め池の亀たち(写真2)が語ってくれると思いますのでご期待ください。



▲王塚古墳(写真1)



▲野々池の亀(写真2)





センター課外活動通信

○第46回神戸市障害者スポーツ大会結果

平成19年4月22日に神戸市立中央体育館でサウンドテーブルテニスの試合が開催され、理療教育課程高等課程3年の中村 吉昭さんが参加し、見事1位になりました。おめでとうございます！

○文芸クラブ 作品集「雪柳」発行

講師の田岡弘子さんやボランティアの塚本照子さんにもご協力いただき、「雪柳」第29号を発行しました。「雪柳」は墨字版と点字版が一冊になっていますので、いろんな方に楽しんでいただけます。若干在庫がありますので、ご希望の方は当センター指導課までご連絡ください。



○春の嵐山へ ハイキングクラブ春季活動

4月29日にハイキングクラブのメンバー6名は、近畿大学社会福祉すみれ会のみなさんと一緒に京都・嵐山を散策しました。嵐山公園、渡月橋、野宮神社などをまわり、短い時間でしたが親睦を深めました。次回活動は秋に淡路島に行く予定です。

利用者募集中!

～あなたも港町・神戸でチャレンジしてみませんか!?～

国立神戸視力障害センターでは、自立訓練（機能訓練）コース、就労移行支援（養成施設）コースの利用者を募集しています。また、当センターの見学も随時受け付けております。利用についてのご質問やご相談、見学の希望など、詳細につきましては当センター指導課入所係までお気軽にお問い合わせください。

当センターの概要についてのパンフレットやリーフレットもございますので、送付を希望される方は指導課入所係までご連絡ください。

訓練コース	自立訓練（機能訓練）	就労移行支援（養成施設）
このような方にぴったりです	視覚障害をお持ちの方で、見えない・見えづらいことでお困りの方、歩行に不安がある方、身の回りのできることを増やしたい方、パソコンなどの操作を学びたい方など	視覚障害をお持ちの方で、あんまマッサージ指圧、はり・きゅうの免許を取って職業的自立を目指したい方
利用できる方	16才以上で身体障害者手帳（視覚障害）をお持ちの方	18才以上で身体障害者手帳（視覚障害）をお持ちの方
総定員	10名	92名（平成20年度）
利用期間	期間は個人で異なります	3年間（修業年限）
利用開始時期	随時	毎年4月初旬
利用審査	書類審査	1 書類審査 2 学力・医療及び面接審査
利用手続きや費用について	障害者自立支援法に基づき、訓練に要する費用の1割（定率負担）と、食費・光熱水費（実費相当分）の合計をご負担いただきます。 当センターの障害福祉サービスを受けるためには、市区町村が発行する「障害福祉サービス受給者証」が必要になりますので、まずは、お住まいの市区町村福祉課または当センター指導課までご相談ください。	



国立神戸視力障害センター 指導課入所係

TEL 078-923-4670 / FAX 078-928-4122

E-Mail : sidou@kobe-nhb.go.jp